



外国文献紹介

脳動脈瘤のフローダイバーター治療後に MRI の T2*強調像でみられる虚血性病変の微小出血性変化について

Nakae R et al : Microhemorrhagic transformation of ischemic lesions on T2*-weighted magnetic resonance imaging after Pipeline embolization device treatment. J Neurosurg 130 : 1997-2004, 2019

筆者らは、脳動脈瘤でフローダイバーター治療を受けた患者（PED 群）28 例（30 病変）とステントを併用したコイル塞栓術を受けた患者（EN 群）24 例（27 病変）の、術前、術後および 6 カ月後の拡散強調像と T2*強調像について、後ろ向き調査を行い、術後の虚血性変化の有無や出血性病変の有無などを調べて検討した。その結果、術後第 1 病日には EN 群よりも PED 群に多くの虚血性病変がみられた。また、6 カ月後の T2*強調像では、EN 群よりも PED 群に多くの微小出血が認められた。PED 群の 36.7% に微小出血がみられ、その 77.8% は術後第 1 病日にみられた虚血性病変の部位の出血性変化と考えられた。そして、フローダイバーター治療における出血性合併症のリスクを減らすためには、術中および術後の梗塞を予防することが重要であると述べている。

瀬戸一彦